

寺川 純平（ゲノム編集・疾患モデル）・伊藤 潤哉（分子生殖科学）
・鴨下 真紀（生殖技術開発）・加瀬 ちひろ（応用動物行動学）
・山本 誉士（動物時空間解析）・片平 浩孝（環境生物学）

研究の背景

動物園・水族館は、教育、調査研究、種の保存など多様な役割を担っており、レクリエーションの場としても重要な機能を果たしています。しかし近年、野生個体の導入がますます困難になっているため、貴重な動物種を持続的に飼育・展示していくには、飼育下での遺伝的多様性を維持しつつ、繁殖を継続していくことが不可欠です。そのためには、**生物学的知見に基づいた繁殖管理**が重要です。

本プロジェクトでは、動物園・水族館における展示動物の繁殖成績の向上を目指し、動物の生殖に関する基礎的情報の収集・解析や、現場で活用できる新たな技術の開発に取り組めます。



アプローチ

本プロジェクトでは、動物園・水族館などの展示動物や野生・野外動物のうち、入手可能な検体、例えば、去勢後の生殖器や死亡個体から得られる生殖器などを用いて、生殖に関わる基礎的な解析を進めていきます。

また、連携可能な施設や団体から検体を入手して、必要な解析を試みます。

現在進めている、あるいは今後取り組みたい課題例

- ・海洋哺乳類の妊娠に関わるホルモン動態の解析
- ・簡便な性判別技術法の開発
- ・各種動物の生殖組織標本の作製



期待される結果

本プロジェクトは、現場で実際に活用可能な技術の開発に貢献することが期待されます。また、基礎的なデータの収集と解析を通じて、今後、希少動物の繁殖管理に必要な生殖に関する情報を蓄積できると考えられます。



募集方法

選抜方法：学業成績及び教員との面談・やる気

募集人数：3名程度

連絡方法：学内g-mail, google chat

その他：基本技術の習得のため実験動物を用いた実験も行う予定です。

動物の臓器を取り扱う可能性があります。

学外での活動を行う場合があります。

学生に対するメッセージ：「麻布大学から世界に研究成果を発信したい！」と考え、真剣に研究活動に取り組んでいます。地道な作業が多く、期待どおりの結果がすぐには得られないこともあるかもしれませんが、それでも「やってみたい！」という気持ちを強く持ち、**粘り強く継続的に取り組める**学生の応募を歓迎します。